



生徒のみなさんへ

プラスとマイナス

プラス (+) とマイナス (-)、考え方の違いで人生が大きく変わってしまう。

<人が自分の悪口を言っていた>

マイナス

「悪口を言い返してやろう。あいつは何を言われたら嫌がるのかなあ？」

プラス

「自分が何か傷つけてしまったのかな？ 嫌な思いにさせてしまったのかな？ 悪かったところがあったのなら謝らないと……。勇気を出して聞いてみよう。」

<テストの点が悪かった>

マイナス

「理科と数学は難しいから仕方がない。英語もあんなにたくさんの単語が覚えられないはずがない。勉強なんてあきらめよう。」

プラス

「自分の勉強の仕方のどこが悪かったんだろう？ 今の時点でできない問題もはっきりとわかったし、しっかりと復習に頑張ろう。」

<誰も立候補がなかったので生徒会の〇〇委員になった>

マイナス

「やりたくなかったのに誰もやる人がいなかったから仕方なくなっただけ。まあ、仕事なんか適当にやっておけばいいだろう。」

プラス

「きっと、委員会に入っていないと経験できないことがあると思う。自分にどれだけできるかわからないけど、自分のために、クラスの仲間のために、委員の仕事を全力で頑張ってみよう。」



「努力する人は希望を語り、なまける人は不満を語る」という言葉がある。努力する人はいつも前向きで、プラスの考え方ができる人である。なまける人は多くのことを周りのせいにし、マイナスの考え方が多くなる人である。そのどちらの生き方をするかによって、人間の人生は大きく変わってくる。日々暮らしていれば楽しいことばかりではない。つらくて逃げ出したくなることもある。腹が立つこともあるかもしれない。しかしそんな時、言い訳を懸命に探したり誰かのせいにして、不平や不満ばかりを言っていれば、いつまでも不平・不満の人生から抜け出すことはできない。

「〇〇が悪い」、「△△のせいだ」と周りをゆび指したとき、親指と人差し指以外の3本の指は自分の方を指していることを忘れてはいけない。周りへの不平・不満は、多くの場合自分へのマイナスとなって返ってくるのだ。生徒のみなさん、日々の授業に頑張っていますか？ 目の前のやるべきことに一生懸命取り組んでいますか？

「どうせ勉強なんて…」 「まあ、そうじくらい…」 とマイナスの考え方をするのか、

「少しでも自分の力が出せるように頑張ろう」とプラスの考え方をするのかによって、今後の人生は大きく変わってくるのですよ。 (裏面に続く)

ホームページで日々の学校生活の様子を紹介しています。

<https://www.torikyo.ed.jp/yurihama-j/>



2学期末保護者アンケートに答えて

2学期末の保護者アンケートでいただいたご意見にお応えいたします。

(意見1) 不登校生徒へのサポートについて、その他の家庭の保護者に学校がどのような努力をしているのかが分かるようにされていますか？

(回答) ホームページの学校評価のページで多少取組についてふれていますが、ご意見のとおり、十分な説明ができていなかったと反省しています。今後は、学校だより等でも説明していきたいと思ひます。

(意見2) 授業中お喋りする生徒が多く、先生の話が聞こえない様です。勉強に集中できるように工夫できないでしょうか？

(回答) 現在、学校が目指している授業は、これまでの教師が生徒に説明をする教師主導の授業ではなく、生徒が自ら学ぶ生徒主体の授業です。そのため、湯梨浜中学校では開校時から協同学習に取り組んでいます。したがって、こういったご意見をいただくというのは、まだまだ本校の取組が十分ではなく、教師主導の授業がかなり行われているということだと反省しています。また、この「先生の話」というのが、授業での生徒の活動内容に関する説明だったとすると、生徒に「先生の話」の重要性を理解させることができていないということになります。どちらの場合であっても、改善が必要なことですので、今後も研究をさらに進めていきたいと思ひます。

(意見3) 子どもたちにいろいろな経験・体験をした方の話を聞く機会を増やしてほしい。

(回答) 湯梨浜中学校ではたくさんの講演・講話を実施しています。他にも、中学校で実施してもらいたい講話等がありましたら、遠慮なくご意見をいただければと思ひます。

(意見4) テスト課題について、×表記については、理由や具体的改善内容を補足してほしいです。×の表記が否定的な表現に見えて、好ましくないと思ひます。

(回答) テスト成績表には、テストの得点だけでなく、保護者の方に課題の提出状況を○（提出）、△（提出遅れ）、×（未提出）でお知らせしています。提出内容に不備があったときには、生徒に不備な点を説明して再提出をさせています。その説明については、状況によってかなり説明量に違いがあり、成績表に掲載するのは困難ですので、お子様に聞いていただければと思ひます。また、具体的な対策については、懇談等で担任にご相談ください。△、×表記については、提出遅れ、未提出のように言葉での表記を検討していきたいと思ひます。

(意見5) I LIFEの活用を充実してほしいです。学校、家庭ともにあまり重要視していないように感じます。連絡事項の未確認が続いたことがあり、毎日確認して頂きたいです。中学生は手を離していく年齢とは思ひますが、学習支援が必要な場合、家庭との連携をもう少し密にとるか、学校で補足してほしいです。

(回答) I LIFEは生徒が次の日の学習内容を記録したり、日記を書いたりするために使用しています。担任はI LIFEの提出を呼びかけるとともに、日記のチェックをして生徒とのコミュニケーションをとっています。出張や他の業務が忙しいときなどに確認ができないこともありますが、できるだけチェックをするように共通理解を図っています。ただ、I LIFEは小学校の時の連絡帳とは違い、保護者の方との連携を図るためのものではありません。学校と家庭との連絡は電話を使用することにしていきますので、ご理解・ご協力をお願いします。

(意見3) 合併により中部地区一のマンモス校になりました。全体の人数が増えたせい、か、すべき事をやらなくてもそれでも良いというような姿を子どもから感じます。課題の提出や生活ノートの記入・提出などいろいろな場面でクラスや小グループで競い合い全員が達成を目指す状況をつくる。タブレットで報告するような仕組みをつくり、タブレット上でその状況を見える化する等の取組ができないでしょうか。

(回答) 具体的な提案をありがとうございます。クラスや小グループでの競い合いは、現在も学級、学年の中で実施していますが、十分な効果が出ているとは言えないようです。また、タブレットでの報告については3学期からそうじの反省で活用を始めました。今後も、様々な工夫をしながら、生徒の成長を図っていきたくて考えています。今後も気づいたことについては、ご意見をいただければと思ひます。

次年度の学級編制に対するご意見について

毎年この時期になると、学校には次年度の学級編制に対して、保護者の皆様から様々なご意見・ご希望が入ってまいります。当然学級担任は真剣にその話をお伺いいたします。過去には、担任がうなずきながらお話を伺っていただけ、希望を約束して保護者にもおられました。しかし、学級編制に関しては、すべての生徒、保護者の方が必ず何らかの希望をもっておられます。客観的に判断していただければご理解をいただければと思ひますが、すべての生徒・保護者の皆様の希望を叶えることは不可能です。ご意見・ご希望はお伺いしますが、様々な要素を考慮して学級編制は行いますので、希望は叶わない可能性の方が高いことをご理解ください。